

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野
学籍番号	15S3055	院生氏名	平野 正広
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	最大口腔内圧法による呼吸筋力と身体機能との検討		
審査結果(枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格		
<審査結果の要旨> 【博士論文の概要】 平野正広氏の博士論文の概要は、以下の通りである。 最大口腔内圧法による呼吸筋力測定では、通常通気孔が用いられているが、通気孔を用いない測定を課題とした。通気孔を用いない呼吸筋力測定の再現性について(対象累計60名)、同日内および日を改めた検者内または検者間の再現性を級内相関係数、Bland-Altman分析で検証し、2回測定、同一日の測定の許容が示唆された。また、標準的な通気孔を用いた呼吸筋力測定と高い関連($r=0.8$ 以上)を示した。若年健常成人における性差や参考値、呼吸筋力と簡易肺機能検査指標、運動習慣や身体活動量、四肢筋力の関連性を検討し(対象累計364名)、通気孔を用いない最大口腔内圧法による測定によって得られる呼吸筋力の特徴に関する知見を構築した。 【研究方法(倫理)と論文の構成】 国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号:17-Ig-42)および所属施設である了徳寺大学生命倫理審査委員会の承認(承認番号:2708)を得て実施されており、倫理的配慮に問題はない。研究方法は、課題ごとに適切な分析方法で検討され、論文は課題別と主題全般で論述されている。 【研究の新規性について】 本研究の新規性は、最大口腔内圧法による呼吸筋力において、通気孔を用いない方法の再現性、通気孔を用いた標準的な方法との関連、身体機能との関連を検証し、性差、若年健常成人における吸気・呼気筋力値の参考値、呼吸筋力と簡易肺機能検査指標、運動習慣や身体活動量、四肢筋力との関連を示した点である。本研究は通気孔を用いない最大口腔内圧測定方法も選択肢の一つになる可能性を探る研究として評価できる。 【審査経過と口頭試問の結果】 平成29年12月5日に初回、論文修正後の12月25日の2回、審査委員全員が出席のうえ、審査会を開催した。審査員からの指摘事項に対して博士論文の修正を重ね、適切に修正された。口頭試問に対しても適切に応答した。 【合否判定】 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。			
論文審査担当者	主査 久保 晃 副査 谷口 敬道 副査 金子 秀雄		